

ももたろう基金【第11次緊急助成（子ども支援）】 事業実施報告書

実施事業	ぬいぐるみを使ったストレスケアプロジェクト『NSKP(*^-^*)』
実施者名	NPO 法人 そーる 代表 片岡奈津子
助成金額	380,000円
受益者数	直接受益者 約200名（間接受益者 約600名）

※イベント実施や複数回実施事業は別紙で各回の人数等、対象者数のわかる資料を添付ください。

実施した事業の内容・成果

<実施内容>

- ・ぬいぐるみを使ったワークショップの定期開催
- ・PTSDについて支援者支援をおこなっている支援者へ向けた講習ならびに、セルフケア方法を学び自身の立ち位置を把握しPTSD発症を防ぐ。また支援者が学び、被災者や被災していない方へケアを実践する。
- ・みなし仮設や自宅へ訪問し、高校受験へ向けた個別学習支援を行い、生活面の把握を行う。

*夏休み期間に以下の日程で支援事業を実施。

・ぬいぐるみを使ったストレスケアワークショップ：参加人数

- ① 7月29日 箭田小学校児童クラブ（学童保育）：約70名
- ② 8月4日 エンリッチカフェ×4回：計15名
- ③ 7日 そーるの学校×2回：計8名
- ④ 10日 箭田クリーン作戦（参加子ども向け）：4名
- ⑤ 12日 そーるの学校×2回：計6名
- ⑥ 16日 そーるの学校：6名
- ⑦ 17日 そーるの夏祭り×2回：計11名
- ⑧ 21日 呉妹小学校児童クラブ（学童保育）：約20名
- ⑨ 22日 真備会：中央公民館総社分館：約30名
- ⑩ 30日 まび女子会（まび地域生活支援センター）：8名
- ⑪ 29日 要請あり個人（男児）総社市：1名
- ⑫ 30日 川辺小学校 22名：

・現地被災者による障がい者支援（個別学習指導）

- ① 2名の受験生宅 みなし仮設（もともとは川辺在住）2件を訪問。
夏休み中の水曜日、土曜日を利用。

・ミーティング・打ち合わせ・準備・その他：

- ① 3日 ミーティング・準備
- ② 4日 ミーティング
- ③ 10日 準備
- ④ 12日 ミーティング

- ⑤ 18日 ミーティング
- ⑥ 19日 打ち合わせ
- ⑦ 20日 企画ミーティング・準備
- ⑧ 22日 中間報告会
- ⑨ 25日 ミーティング
- ⑩ 27日 準備
- ⑪ 28日 笠岡市支援者より依頼がありぬいぐるみプロジェクト案内及び打ち合わせ
- ⑫ 29日 ミーティング・準備
- ⑬ 30日 笠岡市役所市長訪問及び実施、打ち合わせ
- ⑭ 30日 笠岡市内オーガニック生地取り扱い店 ぬいぐるみ制作相談、打ち合わせ
- ⑮ 30日 ミーティング

<成果>

●被災し様々なトラウマやストレスを抱えている子ども達へ、ぬいぐるみを使ったストレスケアワークショップを行なうことが出来た。

会場へは新生児と同じ大きさのベビー人形を抱っこして連れていき、プログラムの導入に使っている。

子ども達は興味津々に「赤ちゃん？赤ちゃん？」と近寄ってくる。

NICUで看護師をしていたことや、命について触れながらぬいぐるみプロジェクトの説明を行なう。

体を動かすゲームや歌遊びや大きな声を出したりして心身の緊張をほぐし、かわいいぬいぐるみに名前を付けたり、手触りやふかふかの弾力の気持ち良さを感じてオキシトシンの分泌を促し、簡単な呼吸法を行ない自律神経のバランスを整え、ぬいぐるみを抱きしめながら自分自身を抱きしめる疑似体験を、そして「あなたはかけがえのない大切な命、大切な存在であること」を伝えている。

緊張した面持ちだった子ども達も、ぬいぐるみを見ると「かわいいー！」「ふかふかー」等、和んだ表情になり、既にぬいぐるみプロジェクトを実施した保育所や地域サロンなどでぬいぐるみを持っている兄弟がいる子ども達からは「うちの弟が同じの持ってるー！ずっと寝るとき一緒に寝てるで」などの声が聞かれ、体験した子ども達からは「眠たくなってきた。寝てしまいそう」「なんかすっきりした」「宿題がはかどりそうな気がする！」などの声が聴かれた。

子ども達の表情や感想からストレスの軽減の効果があったと考える。

●被災者でありながら受験生であったことや、みなし仮設での避難生活であったため、慣れない生活の中での受験勉強を支えることが出来た。また日常の相談事なども対応することが出来た。継続した支援を行なっていく必要を感じている。

【事業成果物】

ぬいぐるみプロジェクトFB／山中弓子FB／そーるFB

【課題】

●真備町を中心に保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、学童保育などを訪問予定（真備町、総社市、笠岡市、小田郡矢掛町、岡山東区、倉敷市市内等）であったが、全ての地域、全ての学年を訪問することはできなかった。

●また、高校生たちにインストラクター指導をしたかったが、スケジュールなどが合わず実現できなかった。高校生たち自身へのぬいぐるみによる心身のケアと共にぬいぐるみインストラクターとしての彼らのモチベーションや自己効力感、自分の存在意義の確立なども彼らのケアとなる為、今後、機会を作って実現させたい。

活動の様子（写真などを添付してください）



かわいいぬいぐるみたち



笠岡市長を訪問＋ワークショップ実施
保育園・小学校・中学校なども訪問しました



児童クラブでのワークショップ



川辺小学校でのワークショップ



エンリッチカフェとそーるの学校の会場



まび地域生活支援センターでの
ワークショップのチラシ

決算報告 (※原則として領収書の写しを添付いただきます。)

今回実施した事業の決算内容は下記の通りです。

費目		金額 (円)
収入の部	ももたろう基金助成金	380,000
	自己資金	9,403
	収入合計	389,403

費目	算出根拠	金額 (円)		
①当プログラム助成金 対象費目 当プログラム助成金 (このプログラムで集めた寄付金) を充てる費目	人件費	専門職看護師	180,000	
	人件費	@1000 円×2 時間×3 回×2 件	12,000	
	通信運搬費	ルーター使用代金 3000 円×1 台×月	5,310	
	印刷費用	A4 コピー用紙、プリンターインク代金	19,856	
	備品購入費	ホッチキス、ファイル、マジック等	7,595	
		クッション、抱き枕 (中高生用) @300 円×500 個	75,267	
		ユニフォーム代金	ポロシャツ・パンツ 2 組/ボランティア用ポロシャツ10 名分	55,977
		交通費	ガソリン代 @148 円/ℓ×50ℓ (およそ 10 km/ℓ)	25,888
		会議費 茶菓代、光熱費など	1 人 500 円×10 名分×3回	7,510
		小計	389,403	
②その他費目 当プログラム助成金 (このプログラムで集めた寄付金) を充てない費目				
		小計	0	

寄付者へのメッセージ

この度は、尊いご支援をありがとうございました。かわいいぬいぐるみや抱き枕を沢山購入することが出来、子ども達のもとへストレスケアワークショップと共に届けることが出来ました。

思いがけない災害にあった子ども達やその家族、またその子どもたちを支えている大人たちに「苦しくなった時、悲しい時、寂しい時、怖い時、つらい時」にセルフケアが出来るぬいぐるみプロジェクトは具体的なケアができるため、なるべくたくさん子ども達に届けたいと思っていました。今回集中的に届けることが出来たことは皆様のご支援のお陰です。

また、今まで看護支援のユニフォームである紺色のポロシャツでストレスケアワークショップを保育園などで行なっていたので、忍者の様な格好に見えていたのですが、この度、ユニフォームとして明るい色のポロシャツに変えることが出来ました。会場が明るくなって好評でした。そして、みなし仮設にいる障害を持った子ども達にも学習支援を届けることが出来ました。学習を含めて日常の関りが出来たことは本当に良かったと思います。皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

今後の活動

ぬいぐるみプロジェクトは山中氏しか実施する者がいない為、今後の災害支援や日常のストレスケアを考えると、インストラクターの養成が必要だと考えている。被災地でのインストラクター養成は早急に行ないたい。子どもはもちろんのこと、親御さんたちや教員の方々、支援者たちへのストレスケアが必要である。

また、支援者支援やセルフケアワークショップについても継続した支援も必要である。具体的なストレスケアの方法としてぬいぐるみプロジェクトは有益であると考えている。そのため、今度もぬいぐるみプロジェクトの働きを継続していく必要がある。

また被災しながら受験生である子どももあり、そこへの関りや支援も継続していく必要がある。